

松くい虫被害発生のメカニズム

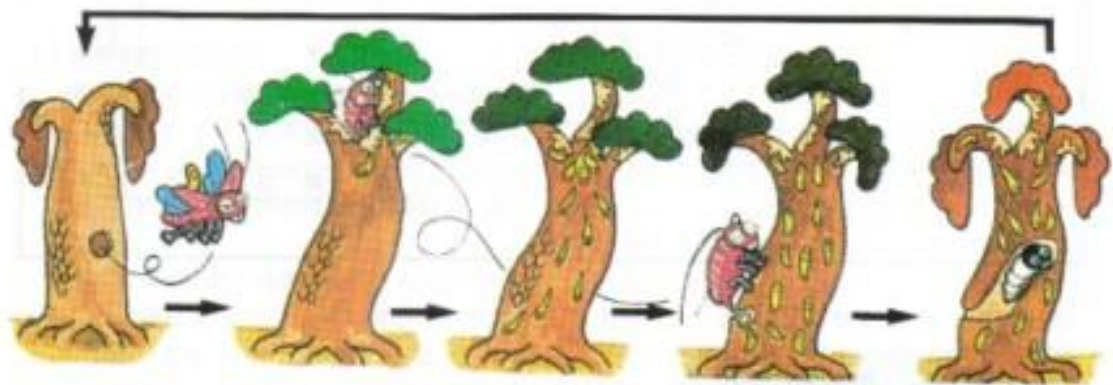
松が急に赤くなって枯れるのは、マツノザイセンチュウ（以下「センチュウ」という。）という小さな線虫が松の樹体内で増殖し、樹液の流れを止めてしまう「生理異常」を引き起こすことによるものといわれています。

センチュウは、自力では他の松に移動できませんがマツノマダラカミキリ（以下「カミキリ」という。）というカミキリ虫の羽化時に乗り移ることで健全な松へ移動します。

カミキリはセンチュウによって衰弱しヤニの出なくなった松に産卵し繁殖します。この時にセンチュウはカミキリの体に付着し、カミキリの羽化・脱出とともに移動し、健全な松を枯らしていきます。

<時期>

- 6月～ 8月 カミキリが羽化し、松から脱出する。
羽化・脱出時にカミキリに付着したセンチュウが他の松に運ばれる。
カミキリの食害部よりセンチュウが樹幹に侵入する。
- 6月～10月 樹体内でセンチュウが松の生理異常を引き起こす。
- 7月～ 8月 センチュウの増殖により衰弱した松にカミキリが産卵する。
- 9月～翌年6月 松が枯れ、カミキリの幼虫は樹体内で越冬する。
春になって羽化し、松から脱出して他の松へと移っていく。



マツノマダラカミキリ（運び屋）



マツノザイセンチュウ（病原中）